

平成 29年 8月

もたいたい、もたいたい

7月11日に(株)プリマベラ様の経営計画発表会があり、吉川社長はプリマベラの事業コンセプトは「もたいたいをビジネスにする集団である」と言われました。プリマベラ様は中古品を中心とするビジネスが中心ですが、プリマベラとはどのような会社なのかと説明するとき、「プリマベラとは、もたいたいをビジネスとして社会貢献をする会社です」と定義した。聞いた人は、世の中に貢献している会社、地球にやさしい会社、社員自分の会社に誇りを持っているのではないのでしょうか。私はこの「もたいたい」という言葉に感動し、世の中はもたいたいであふれているのではないかと気づきました。古田土会計の「ループ」は「日本中の中小企業を元気にする会社」です。」と書いていますが、会計事務所から見ると中小企業のもたいたいについて今日は書きます。

三井住友銀行の税理士担当部長さんの話です。中小企業経営者で決算後に銀行に決算説明に来てくれる社長は支店においてバラバラですが、1割か多くて2割かです。それに説明は損益計算書のみかほとんどで、貸借対照表を説明する社長はほとんどいないそうです。銀行が聞きたいのはP/LではなくB/Sの説明で特に資産内容を理解し、資産査定をしている社長はいないそうです。銀行が聞きたいのは腐っている資産があつた、どのお存スケジュールでどのように処理するかということかです。B/Sの説明はどつまればよいのか多くの人はわかりません。P/Lは比較して増減したり、月次の推移を見ればわかります。私はP/Lは見るもの、B/Sは読むものと思っています。B/Sは比較して増減を見てわかりません。B/Sは資金の増減の結果です。資金運用とはB/Sの勘定科目の増減です。この増減を一表にしたのがキャッシュフロー計算書です。古田土会計のキャッシュフロー計算書は稲盛和夫さんの「実学」という本を参考にして独自の形に作り替えました。しかし、B/Sもキャッシュフロー計算書も過去の結果です。改善するためにはあと役に立ちません。B/Sの改善が一番有効で社長にもわかりやすいのが、資金別貸借対照表です。また銀行さんの説明に役立つのは古田土式「社長の成績表」です。道具をうまく活用することによって社長はB/Sに強くなり、B/Sの改善ができます。多くの中小企業の経営者は、売上拡大と利益拡大で会社を成長させることが経営手腕であると信じています。しかし売上も利益も手段です。目的は財務です。預金を多くし、借金を少なくし、その差額を多くすることです。財務を知りたいために多くの会社で資金に苦しみ、過大な借入金や無駄な利息を払っています。本当にもたいたいと思っています。

あるお客様の話をします。7年前に円高をみて頂いたときには借入金14億円、預金9億8千万円、支払手形2億円、支払利息4,580万円でした。財務体質の改善に取り組み、去年の決算では借入金は6年間で10億4千万円減って、3億6千万円に、預金は2億円減って、7億7千万円に、支払手形はほぼゼロに、支払利息は44万円減って、580万円に、今年は300万円に右ります。この間に、税引後利益は2億4千万円です。10億円以上の借金を返済するのに、利益は2億4千万円しか出ていません。他はB/Sの改善は多く借入金の返済原資は、税引後利益+減価償却費と言われますが、借入金を返済するのはお金です。お金はB/Sを改善することです。未来のB/Sは資金別貸借対照表によりイメージできます。私達は、今後のお客様の財務のもたいたいに取り組めます。古田土会計独自の商品を使って、強い財務体質の会社作りのお手伝いをしてまいります。また先月号でも書きましたが、事業承継コンサルティングの提案により、もたいたいの金の使い方をしている会社もあります。是非とも契約する前に古田土会計にご相談して下さい。私達がおも提案いたします。

古田土 満